# 耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちは。立春が過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

いつもかわら版をお受け取りいただき、ありがとうございます。毎月、「へ～、それも仏教用語だったの。知らんかったわ」と多くの方からお声をかけていただきます。ありがたいことです。と申し上げた「ありがとう」「ありがたい」という言葉も仏教用語です。

普段から何気なく使っているお礼の言葉、当然のように毎日使っている親しみ深い言葉である「ありがとう」。この言葉のルーツは「法句経（ほっくきょう）」というお経の一文と言われています。「法句経」はパーリ語で「ダンマパダ」と呼ばれるお経です。

この一節に次のくだりがあります。「人の生を受くるは難く、死すべきものの、生命あるも有り難し」。人として生まれ、命を授かったことの驚きを伝える一節です。

命を授かることも、人から親切にされることも、当然のことではなく、極めて稀で幸運なこと。そういう「有り難い」ことに対して感謝の気持ちを伝えるのが「ありがとう」です。

友人に出会うことも、一生の伴侶と出会うことも、子どもを授かって出会うことも、皆、「有り難い」こと。出会いに感謝して「ありがとう」という気持ちになれれば、人間関係に悩むことも少なくなることでしょう。

「袖（そで）触れ合うも他生の縁」という諺（ことわざ）があります。「多少の縁」ではなく「他生（または多生）の縁」です。おそらく、多くの人が「多少の縁」と勘違いしているのではないでしょうか。

「他生」「多生」とは、何度も生まれ変わるという意味の仏教用語です。つまり、たまたま道ですれ違うだけの人も、前世からの何かの縁でもない限り、何十億人もいる人間の中で、そして広い世界の中で、偶然とは言えない何かの因縁のある「有り難い」出会いであることを諭しています。

いわんや、友人、伴侶、子どもであれば、それは極めて「有り難い」出会いです。もちろん、職場や地域での知人、隣人も、もちろん「有り難い」出会いです。

命を授かったこと、生きていることの「有り難さ」、あの人にもこの人にも知り合えた「有り難さ」、この仕事、あの仕事に出会えた「有り難さ」、そういう感謝と驚きの気持ちを表す言葉が「ありがとう」です。

さらに言えば、嫌な人、辛いことに遭遇するのも「有り難い」こと。そのことが腹に落ちると、日常生活の全ての出会い、全ての出来事に感謝する気持ちが湧いてきます。そういう気持ちになると、身の回りの風景や人生の感じ方も変わってきます。

今日もかわら版を受け取っていただいてありがとうございます。今日、あなた様に出会えたことも、偶然このかわら版をお受け取りいただいたことも、本当に「有り難い」ことです。

それでまた来月まで、お元気でお過ごしください。合掌。

※

## かわら版執筆者 大塚耕平

覚王山「耕庵」 https://ko-an.blog/

愛知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、[illegible]中学校を卒業。２００２年から地元の歴史・文化[illegible]と振興のために、日泰寺の縁日（毎月２１日）に「弘法さんかわら版」をお配りしています。２０１３年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師も務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」、「仏教通史」、「四国霊場と般若心経」（大法輪閣）など。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に１８年間勤務した後、２００１年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授（２００５～１７年）。早稲田大学博士。

大塚耕平事務所　☎ 052 757 1955　担当：あさい
名古屋市千種区覚王山通 9-19　覚王山プラザ 2F